

実施報告書

1. 確認事項等

施設番号	66-0265										
施設名	八王子隣保館保育園										
施設所在地	八王子市叶谷町1133										
法人名	社会福祉法人東京都福祉事業協会										
活動期間	令和	7	年	4	月	から	令和	8	年	2	月
活動内容の公表	✓	活動報告書を作成し、園のホームページ等で公表した。									
	公表したホームページ等のURL				https://youtu.be/6gLXMPL9-a4						

2. 活動報告（注1）

番号	1											
テーマ	食育											
実施回数・期間 (注2)	合計8回（5月2回、6月3回、10月1回、12月1回、R8.2月1回）											
対象クラス・ 対象人数	0歳児クラス		1歳児クラス		2歳児クラス		3歳児クラス		4歳児クラス		5歳児クラス	
	9	人	12	人	15	人	16	人	16	人	16	人
活動内容 (注3)	一年間、季節を通じて、食に関わる活動を体験する。各学年ごとでできる事（野菜の生育、収穫、試食、季節の食材に触れる、大豆の活用を知り味噌づくりの体験など）、全学年で体験する事（魚の解体の見学、試食）などある中で、食べる事の大切さや、さまざまな工程で食事ができる事を知り、感謝の気持ちを持つ。											
活動における チェックリスト	グループ単位での活動等により、乳幼児同士の対話、関わりを促した。											
	※乳幼児同士の関わりを促すためにどのような工夫をしたか 食について、身近に感じられるように、絵本を準備したり、ままごとの食材を増やして環境を整えた。											
	✓	活動中の乳幼児の言葉、表情、ジェスチャー等の表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録した。										
	※記録をどのように行ったか 写真を撮ったり、ビデオを撮影して記録した。											
	✓	乳幼児一人ひとりが主体的に活動できるよう配慮した声掛け等を行った。										
	※主体的な活動のためにどのような工夫をしたか 魚の解体を見た後は、魚の種類について学べるように図鑑を用意し、描きとめられるよう、画用紙や、画材を準備した。											
	✓	記録をもとに、乳幼児の関心や発見、表現を振り返った。										
	※振り返りの実施方法 乳幼児会議や、職員会議などで話し合った。											
	✓	幼稚園等の各施設の教諭同士や保護者等に、探究活動の内容を共有した。										
	※教諭や保護者等への共有方法 活動の写真を展示し、職員のみでなく、保護者にも見てもらい、子どもの発見や感想を共有した。											
	✓	次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考えた。										
	※継続的な実施のための工夫 みその作成では、定期的のみその試食を行ったり、今年度の地域の行事等で味噌汁を提供する予定。											

（注1）活動報告は、複数の活動内容を実施した場合は、活動ごとに記入してください。

（注2）「実施回数・期間」欄には、今年度に継続的（月を単位とする複数月）に実施した取組の実施状況を記入してください。なお、原則、単発で実施した取組については対象になりません。

（注3）「活動内容」欄には、どのような取組を行ったのかがわかるよう記入してください。また、活動報告書等、取組を行ったことがわかる書類の写しを提出してください。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0265
施設名	八王子隣保館保育園
施設所在地	八王子市叶谷町1133
法人名	社会福祉法人東京都福祉事業協会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

野菜を育て収穫し、食べてみる。

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
土に触れ、感触や、温度を感じる。野菜が育つ様子を、日々観察する。収穫の喜び、野菜種類や形などに気づく。食して、味を楽しむ。

2. 活動スケジュール

どんな野菜があるか調べ、(季節的に)植えられる野菜を選ぶ。→プランターに植える。
→みずやり、観察。→収穫→調理→試食

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
野菜の表札を作るために塗り絵を用意する。ラミネータで防水。プランター、土の準備、ジョウロ、シャベル、化成肥料など

4. 探究活動の実践

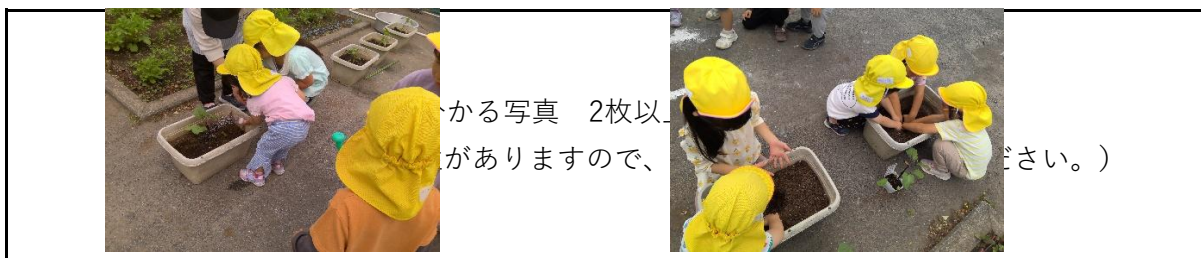
<活動の内容>

育てたい野菜を選び、グループごとに分かれる。野菜の標識を作る。苗を入れる穴を大人と作る。苗を入れ、土をかぶせる。ジョウロで水をやり、標識を飾る。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

野菜の塗り絵は、図鑑を見ながら、色を選ぶ。トマトの色の変化について、子どもたちで話し合っている様子がある。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

どんな野菜があるか、子どもたちはよくわかっていた。毎日の水やりも率先して行っており、花芽が出た時は嬉しそうに報告してくれた、野菜が苦手な子も、自分たちで収穫した野菜は口にして、野菜を食べるきっかけにもつながった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0265
施設名	八王子隣保館保育園
施設所在地	八王子市叶谷町1133
法人名	社会福祉法人東京都福祉事業協会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

畑の土に触れる。土の中に、生き物がいることに気が付く。ジャガイモのできる場所を知り、野菜によっては、食べられるところが違うという事を知る。

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）
5月に植えた野菜を観察しつつ、畑に行って土の様子（感触や生き物がいること）の違いを知る。野菜には、種類によっていろいろな所が食べる事ができると知る。（実や、根菜、葉など）

2. 活動スケジュール

事前に畑に散歩に何度か行って見る。ジャガイモの葉が育つ様子、花の観察、収穫頃は葉が枯れてくる様子を見に行く。
畑の方に、じゃがいもの収穫の仕方を教えてもらい。実際に掘る。掘れたジャガイモを観察したり、小さい子芋はままごとに使って親しむ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）
何度か、畑に足を運ぶ。土の感触を確かめるため、軍手などは使わず、素手で行う。終了後、手洗いの為にペットボトルに水道水を入れて、持参した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

じゃがいものでき方について、図鑑を使って調べてみる。ジャガイモの料理について、話合ってみる。→実際、畑へ行く。→ジャガイモほりを楽しむ。→観察、持ち帰り、お家の人と、料理をしてもらう。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

最初は、土の中からジャガイモを取り出すのに戸惑っていた子どもたちだったが、要領が分かると次々に掘っていった。土の中から、小さな幼虫やミミズが出てくると歓声が上がり、触れる子は、誇らしげに見せに来てくれた。

活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。

(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。)

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

砂場や、プランターではいない虫を発見し、怖がっていた子も、他の子が触れることで触っていた。畑のわきに生えていたキノコに気が付き自然に触れ、良い経験ができていた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0265
施設名	八王子隣保館保育園
施設所在地	八王子市叶谷町1133
法人名	社会福祉法人東京都福祉事業協会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

スイカ割を楽しんで、味わう。

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

夏の風物詩である「スイカ」は、実は野菜の仲間だという事を知る。また、スイカの大きさについて触れ、大きいもの、小さいものを比べてみる。種の並んでいる様子を観察する。

2. 活動スケジュール

スイカ割について、事前に知らせる。棒を使うので、振り回したりしないように伝える。当たらなくても、次のお友達と替わる。応援して楽しむ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

スイカがテーマの絵本を用意する。ビニールシート、棒、包丁、お盆、ゴミ箱。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

スイカ割をする前にビニールシートの準備をする。→大きいスイカを実際に見る。触る。重さを体験する。小さいスイカと比較する。→ルールの確認→スイカ割を楽しむ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

スイカの大きさや重さに驚いている。ツルツルしている。冷たい（八百屋さんが冷やして配達してくれたため）



<振り返りによって得た先生の気づき>

普段、切られて購入してくる家庭が多いので、丸いスイカに思いのほか喜んでいる子が多かった。スイカの大きさの比較をしたので、色の違うスイカも準備できたら良かったのではという声もあった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0265
施設名	八王子隣保館保育園
施設所在地	八王子市叶谷町1133
法人名	社会福祉法人東京都福祉事業協会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

命の大切さを知る

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
年齢に関係なく、みんなで見て、触って体験する。魚だけではなく、生き物、植物の命を頂き、自分の体ができていることを知り、保育方針である「豊かな育ちと確かな経験を大切に
する保育」にかなうと考え、普段の保育の中ではできない体験になる。

2. 活動スケジュール

前もって、栄養士が、魚の栄養について導入する。→包丁を使うので危なくないようにまた、見えないと子どもたちが固まらないように段差を付けた椅子に座り見やすいように着席させる。→魚一匹をまじかで見、触ってみる。目のきれいさや、歯が付いている様子を触ってみる。→捌かれて、切り身になる様子を観察する。→目の前で塩焼きにし、試食する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
魚の図鑑を本棚に置き、ポスターを保育室の壁に貼った。(特に今回解体予定のブリを多く貼った)解体ショーでは、いつも魚を納品してもらっている業者に来てもらいブリを捌いてもらった。準備したものは、ブリ、ビニールシート、つくえ、業者依頼。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

1、2歳児クラスの子も、捌く様子は見学しないが、丸のままの魚は観察する。触る時には、手を石鹸で洗い、アルコール消毒する。魚屋さんにも魚のおなかが見えるようにゆっくり捌いてもらう。内臓や頭は、早めに撤去してもらった。切り身になった魚を、今度は給食職員に目の前で調理してもらう。たくさんの人の手間の後、食卓に並んでいることを知る。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

魚の観察時は、目の中をのぞいたり、口の中に歯や舌を発見し、魚の皮膚にも触れ様々な声をあげていた。魚に包丁を入れるときには、「きゃー、こわい!」「かわいそう」などの声があがった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

新しい取り組みの時は、子どもたちは良く大人の話をきき、真剣に取り組んでいた。魚を切る時は、怖いやかわいそうという声上がり、子どもたちの優しさを感じた。また、すこし残酷だったのではないかという意見もあったが、これが命を頂くことだと改めて職員のなかでも意見が分かれた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0265
施設名	八王子隣保館保育園
施設所在地	八王子市叶谷町1133
法人名	社会福祉法人東京都福祉事業協会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

サツマイモほり

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
ジャガイモに引きつづき、サツマイモも体験してみる。散歩に行き、ジャガイモと葉の形や、野菜の体型の違いに気が付く。今度は、土の中にどのようにイモができているのか、想像してみる。

2. 活動スケジュール

時折、散歩に出かけ、サツマイモの茎を見てくる。夏にこんもり茂っていた葉を観察。→サツマイモ掘りを行う。→採れたサツマイモを比較する。→給食でサツマイモ料理を楽しむ。→芋煮会で、自分達でもサツマイモを料理する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
サツマイモ掘りの後、絵を描くための画材を準備した。芋煮会に入れる具材を購入に行ったり、園庭で、煮炊きし、秋を楽しんだ。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

畑まで行き、イモの生育をしてくれた方に感謝の言葉を述べる。散歩で観察していた蔓は刈り取られ、近くで山ずみになってる。一本のイモに長い長い蔓が付いていたと知る。芋ほりを楽しみ。畑の方にお礼を述べてから、帰園する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

ジャガイモと違って、サツマイモは、縦に垂直にできていた。子どもたちは本気でイモの周りを掘ったり引っっこ抜かなければ収穫できず、「どうやるの〜」「とれない〜」との声も聞かれたが、要領を得ると、楽しらしくおおきなイモが取れた時は嬉しそうだった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

ジャガイモ掘りで要領を得ていると思ったが、始めのころはできないといっている子が多かった。また、芋煮会では、どんな具材を入れたらいいか一緒に考え、買い物にも行けたので良かった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0265
施設名	八王子隣保館保育園
施設所在地	八王子市叶谷町1133
法人名	社会福祉法人東京都福祉事業協会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

いろいろな豆を比べてみよう

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

いろいろな豆を比べてみる。また、豆は「たね」という事に気づき、食べられる種、食べられない種があることも知る。この後行う、大豆の変身、味噌づくりの導入にもなる。

2. 活動スケジュール

日頃から、子どもたちの好きな絵本「そらまめくんのベット」を読む。→どんな名前の豆があるか、絵本から抜き出してみる。話し合っ、そら豆のさやってどんな感触か考えてみる。→実際に触ってみる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

絵本「そらまめ君のベット」、枝豆、ピーナツ、さやえんどうなど

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

そら豆の季節に、そら豆をむいてみる。さやの外側の感触を確かめる→さやを割ってみる→豆を取り出してみる。豆の大きさの並び方、お歯黒の所をみたり、さやの内側の感触を確かめる。→絵本に出てきた豆も観察し、ならべる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

さやの硬さに想像していたものと違うと声上がる。またそら豆の裏側が気持ちがいいと言って、ふわふわが無くなるまで触っている子もいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちが、好きな絵本を実際に用意し、身近に感じることで、とても楽しそうだった。豆を擬人化して、遊んでいる子もいて、もっと対象年齢を下げてもいいのかと意見も出たが、誤飲などに繋がる危険性もあるので、幼児の活動にするべきと意見がまとまった。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0265
施設名	八王子隣保館保育園
施設所在地	八王子市叶谷町1133
法人名	社会福祉法人東京都福祉事業協会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

みそを作ろう

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
大豆についての話をする。豆の栄養素、大豆からどんな食品が作られているか、考えてもらった。春に行った、豆の比較と引き続き、大豆、花豆、黒豆、金時豆の観察をして、感触、においを感じてもらった。

2. 活動スケジュール

前日：栄養士から、大豆の栄養や様々な食品への変化について話を聞く。みその作り方を教えてもらう。

当日：味噌づくり体験。

約2か月後：味見。

夏頃：天地返し、試食。 来年秋：芋煮会で使用予定。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
いろいろな、豆。(触ったり、においを確かめてみる。)大豆の絵本を用意する。(大豆に関心を持つ)みその作成キット、手袋、ジップロック、ミキサーなど。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

前日に、栄養士より大豆の話（栄養や、様々な食品への変化）を聞く。当日、エプロン、三角巾を着用し、きれいに手を洗う。2歳は5歳と一緒に着席する。柔らかく茹でた大豆をジップロックに入れてもらう。大豆をつぶす。ある程度つぶれたら、順番にミキサーにかける。麴と塩を混ぜる作業、混ぜたものとすりつぶした大豆を合わせ、丸める様子を見学する。子どもたちは、丸めたものを樽に投げ入れる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

2歳児は、つぶしきれない事を5歳児に伝え、一緒に行く。5歳児は、2歳児に優しく接する姿が見られた。丸い大豆がどんどん形を変えつぶれていく様子を楽しんでいた。保育園中にドンドンと音が響いていた。煮えた、大豆のにおいを感じ、いい匂いだね～との声も聞かれた。樽に投げ込む作業も遊び感覚で楽しそうに行っていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

春の豆の種類を知る導入から、時間が経ってしまい、味噌の仕込みの時には、子どもたちに、豆の話がリセットされている反応の子もいた。大豆つぶしは、楽しそうだったが、また、みそになるまで、時間がかかる。子どもたちが、忘れないように、定期的に話の話題に出したり、味見をしたりして、みその出来上がりの時の期待が膨らんでいくように保育の中に取り入れていこうという話になった。また、違う大豆の変化にも挑戦してみたい。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0265
施設名	八王子隣保館保育園
施設所在地	八王子市叶谷町1133
法人名	社会福祉法人東京都福祉事業協会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

食することを通して、ごっこ遊びを充実させる。想像力や、発想力を養い、コミュニケーションを楽しむ。

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
身近な大人の姿や、年上の友達の遊ぶ姿を見て、自分も行ってみる。友達とのやり取りのコミュニケーションツールになる。

2. 活動スケジュール

- ・準備したままごとの物の名称、使い方、約束事を伝える。
- ・保育者同士で遊び方や、やり取りを見せる。
- ・少人数で遊ぶ。朝、夕の時間帯に使う。
- ・好きな場所で遊ぶ。
- ・テーブルや、調味棚など、子どもの遊びの発展に合わせ、変化させていく。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
ままごとの道具(皿、コップ、アイスクリームなど、食材、鍋、調味料など)
型はめパズル、テーブル、椅子、調理棚、カウンター

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

保育者が、やり取りの仕方を伝え、言葉のやり取りや、コミュニケーションを豊かにしていく。料理したものを、人形に食べさせたり、スプーンなど食具の練習をしてみる。型はめパズルでは、果物や、野菜の名前や形を確かめながら行っていく。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

最初は、切る、混ぜるだけだった子どもたちだが、食材を選んでくっつけたり、きれいに皿に並べたり、使い方が成長してしていった。「お金ください。」「ペイペイで」など、実際に体験、見たことがあることを、模倣しごっこ遊びを広げていた。お家の方の料理の様子をまねして、コンロの上にフライパンを置いて調理する真似をしている。それを他の子が真似をしている。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

様々な野菜や果物の名前や形を知ったり、触れたりすることで、遊びの中で、食べたり食べさせたりして、食に興味を持った。給食時にもパプリカの刻んだものを見つけ、ままごとの食材と同じと気づいている子もいて、食育につながっている。かたづけの工夫で、写真を撮り、棚に貼ると、子どもたちにもわかりやすく楽しくかたづけることができていた。